

昆虫

筑波山では平地よりひと足早い秋の訪れとともに、夏の間たくさんの種類が見られた甲虫のなかまは数を減らし、トンボやバッタ、カメムシのなかまなどが目立ちます。

また、アサギマダラなど秋の草花を訪れるチョウのなかまは気温の低下とともにだんだんと見られなくなりますが、成虫で冬を越すアカタテハやキタテハは、日だまりを元気に飛ぶ姿が観察できます。



□アサギマダラ



□キタテハ



□エンマコオロギ



□ウラギンシジミ
(左:オス 右:メス)



□セスジツユムシ



□オオカマキリ



□ナツアカネ



□ホソハリカメムシ



□クルマバッタ

鳥類

秋は野鳥のエサになる昆虫が少なくなりますが、木の実や草の実(タネ)が豊富に実り、これらを食べるヤマガラ、ヒガラ、コガラなどの鳥を見ることができます。またツグミ、ジョウビタキなどの冬鳥も、越冬のために北方から渡ってきます。



□ヤマガラ



□ジョウビタキ

その他の生き物

□イシサワオニグモ
美しいオレンジ色をした、山地性のオニグモのなかまです。秋が深まるころ大きく成長したメスが、御幸ヶ原などで見られます。



□ジョロウグモ
木の枝の間に大きな網を張り、成熟したメスはおしりの先が真っ赤に色づいて目立ちます。



出会えた生き物には
✓をつけよう!
(コオロギなどは
声だけでもOK!)

**秋の実りを求め山をかけめぐる
大型のほ乳類、ニホンイノシシ**

筑波山にはニホンイノシシが多く生息しています。ニホンイノシシのオスは体長145cm、体重100kg以上になり、筑波山で最大のほ乳類です。

秋になると豊富な植物の実や根を求め、あちこちに出没しますが、時には人里に姿を現し、農作物に被害を与えることもあります。



□ニホンイノシシ

筑波山の秋の自然



スタンプ&メッセージ

今日の観察と登山についてひと言・・・

年 月 日
なまえ



秋のブナ林

ブナ林は、筑波山を象徴する自然のひとつです。季節ごとに違った表情を見せるブナ林をのぞいてみましょう。



秋のブナ林は、実りの季節です。ブナの葉が茶色に色を変えるころ、大きくなった枝先の実は先が4つにわけて開き、中から細長い三角のタネが2つあらわれます。よい天気が続くと葉より先に、ぱらぱらとタネが落ちてきます。

ブナのタネは森にすむネズミやリスの大好物で、冬越しの食料となります。また、タネは乾燥に弱いので、落ちたタネのほとんどは春に芽を出すことができません。また、芽を出すことができたブナも、ササなどにおおわれると光が足りず育たないことが多く、ひと粒の小さなタネから大きな木に育つのはとても大変なことなのです。

ブナのタネがすっかり落ちるころ、茶色く色づいたブナや赤や黄色にそまった木々の葉がつぎつぎと散っていき、ブナ林は秋から冬へと向かいます。



立ち姿が美しいブナの黄葉



熟して割れたブナの実

筑波山で見られる 秋の植物

秋の筑波山では、登山道の明るいところに咲いているノギクのなかまや色づいた木々の葉がやさしく私たちを迎えてくれます。また、木々におおわれたうす暗いところにも、ひかえめながらも花や葉の形がユニークな野草たちが、自分たちの気に入った場所で花を咲かせています。見過ごしてしまいそうな小さな花も、注意深く観察すると面白い発見があるでしょう。

出会えた植物には
☑をつけちゃお!



☐オヤマボクチ (9~10月)



☐ダイヤモンドソウ (9~10月)



☐キバナアキギリ (9~10月)



☐アサマヒゴタイ (9~10月)



☐ヤマジノホトトギス (8~10月)

☐サラシナショウマ (9~10月)



☐オクモミジハグマ (9~10月)



☐ツルニンジン (9~10月)



☐ツクバトリカブト (9~10月)



☐アキノキリンソウ (9~10月)



☐シロヨメナ (9~11月)



☐チドリノキ (10~11月)



☐ウリハダカエデ (10~11月)



☐ミヤマガズミ (10~11月)

豊富な森が育むリサイクルのしくみ。キノコは森の魔法使い?

筑波山の森の中にはたくさんのキノコが生えます。キノコは枯れ枝や落ち葉、倒木、動物のふんや死がい^{はぐく}にまで生え、それらを分解して土にかえす役割をしています。キノコのはたらきによって森の土は豊かになり、またたくさんの植物が育つのです。



☐フクロツチガキ